

第2回PI評価委員会での主な指摘事項と対応

分類	委員会での主な指摘事項	指摘への対応（案）
P I の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>追加的に実施したラジオ、テレビは結果的にはよかった。逆に、計画的に実施する必要がある（崎山委員）</li> <li>広報活動のメッセージに統一性がない。いつ、どのメディアで、何を言うか、全体プランを立てるべき（廻委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「那覇空港を一緒に考えましょう」をキーワードに広報プランを作成し、計画的に実施する</li> <li>プラン以外の手法も都度検討し、追加的に実施する</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>かかった時間、エネルギー、費用と、その効果を整理し、ステップ2に活かしてはどうか（廻委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステップ1の結果を整理し、対効果の小さい手法を見直すとともに、対効果の大きい手法を重点的に実施する</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民への周知、広報としてはよくやっている（上間委員）</li> <li>関心のある方からの意見収集はうまくいっている（大城委員）</li> <li>意見の言いたい人に、言う方法を伝えることが大切（大城委員）</li> <li>普段考えていない人に考えてもらえたら、なお良い（廻委員）</li> </ul>	<p>—</p>
新聞広告の使い方	<ul style="list-style-type: none"> <li>「伝える」と「伝わる」は違う。情報を少なくして、ビジュアル的に引きつける工夫が必要（崎山委員）</li> <li>資料を請求してもらような使い方がよい（廻委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステップ2では、あまり情報を詰め込みすぎず、資料請求を誘うよう工夫する</li> <li>記事として取り扱ってもらう等、県民の理解を深めるツールとしても利用していく</li> </ul>
説明会のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>圧倒的に男性の参加が多い。女性が参加しやすい工夫が必要（崎山委員）</li> <li>文化的な講演会をすると8割方が女性（上間委員）</li> <li>文化イベントとセットにしてはどうか（廻委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性団体が主催するイベントに参加し説明する等、女性の声を拾えるよう工夫していく</li> </ul>

分類	委員会での主な指摘事項	指摘への対応（案）
広報誌の使い方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一番コストのかからない広報誌が、一番大きな効果をだしている。今後も範囲を広げて継続したほうがよい（大城委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市広報誌は、空港周辺自治体に限定せず、全市町村に対して掲載を依頼する</li> <li>・ その他行政広報紙については、掲載回数を増やす等、最大限に利用する</li> </ul>
認知度の調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料請求の数が、P I に対する認知度の証明になる（廻委員）</li> <li>・ 認知度を正確に調査するのであれば、無作為サンプルに対して実施した方がよい（廻委員）</li> <li>・ 性別、年齢層、職業層から代表してサンプリングする等の科学的アプローチを取り入れると効率が良い（上間委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最終的に、県民にどれほど浸透したのか、何らかの方法で把握することは必要</li> <li>・ 認知度が把握できる質問をアンケートに組み込む、またはインターネットのアクセス数を記録する等により、補足的に実施する</li> </ul>